



ヤマダ電機グループのシー・アイ・シー（群馬県）が運営するリサイクル店「再楽リプラス」が高松市伏石町にオープンした。同社の四国進出は初。ヤマダ電機の旧店舗に入居し、家電をメインに古着や家具なども買い取り、販売する。ニーズが高まり、競争が激化するリサイクル業界でいかに差別化を図るのか。市場の現状とともに太田伸一社長（40）に聞いた。（報道部・八塚正太）

ズームアップ

太田 伸一氏

シー・アイ・シー社長

● リサイクル店四国初進出

家電メインに需要掘り起こす

―まずは店舗の特徴を。

太田社長 2001年、群馬県高崎市に家電のみのリサイクル店をオープンしたのが始まり。以降、リサイクル需要の高まりに合わせ、奈良や山梨などに outlets し、高松本店が8店舗目。買い取った洗濯機や冷蔵庫、クーラーなどを専用施設で分解、洗浄し、6カ月間の品質保証を付けて販売するほか、ヤマダ電機の新古品を扱うなど、ほかのリサイクル店にはない家電の質と量が最大の強みだ。

―家電量販店のグループ会社がりサイクル店を展開する狙いは。

太田 シー・アイ・シーの本業はヤマダ電機で家電を買い換えた際に出る古い家電の収集や処理。01年に家電リサイクル法が施行され、家電の処分にリサイク

ル料が必要となったため、使えるものは直して販売しようとして、リサイクル事業に乗り出した。これまでの店舗はすべてヤマダ電機が移転した後の旧店舗で、グループの資産の有効活用にもつなげている。

―家電以外の商品も幅広く取り扱っている。

太田 ヤマダ電機の店舗は高松本店のように1500平方メートルを超えるものが多い。店内の約4割を家電で埋め、残りのスペースで家具やゴルフ用品、ブランド品などを扱うことで、幅広い客層の取り込みを図っている。

―店内には古着店「ドンダウン・オン・ウエendez」も併設する。

太田 リサイクル業界の中では衣料品が最も身近で、家電の購買層とは違っ

若者の来店が見込める。ただ、家電とは買い取りなどのノウハウが異なるため、併設する形態を採用した。8店舗中6店舗が併設タイプで、店内のアクセントにもなっている。

―県内のリサイクル市場をどのように見る。

太田 県内には既にリサイクル店が多数進出しており、県民のリサイクル商品への理解度は高いと感じている。オープン直後の売り上げは目標を上回った。十分期待が持てる。

―今後の展開は。

太田 リサイクル業界は店舗の大型化、総合化が進んでおり、各社の競争は今後さらに激しさを増すだろう。家電の質と量という強みを生かしながら、県内へのさらなる進出も視野に店舗網の拡大を図りたい。